

平成26年度 事務事業評価シート

平成25年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	川越市美術展覧会					継続						
コード	25	-	25	-	02	-	01	予算事業名	地域文化支援			
担当部署	文化スポーツ部	文化芸術振興課	文化芸術振興担当	予算事業コード	会計	10	款	02	項	01	目	12

1. 事業の位置付けと関連計画、関連事業等

第三次川越市総合計画上の位置付け(太枠内)		位置付けなしの場合	法令による実施義務	義務ではない
基本目標(章)	2章	学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐむまち	実施計画事業名	文化事業の推進
方向性(節)	3節	歴史文化の継承と新しい市民文化の創造	個別計画等の名称	川越市文化芸術振興計画
施策	1	芸術文化活動の充実	当事業に関連する事務事業	なし
細施策	2	芸術文化活動への支援の充実		
事業実施の根拠となる法令・条例等	なし			

2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	川越市を中心とする地域住民を対象とする。地域住民の美術思想の普及と創造的表現力の開発を図り、もって地域住民の交流と地域文化の向上を目的とする。
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	日本画、洋画・彫塑、工芸、書、写真の5部門の美術作品を募集し、入選作品を展示する。また、成績優秀者には埼玉県知事賞をはじめとした褒賞を授与する。展覧会は10月に2期に分けて開催する。各会期最終日には審査員による講評を行い、作品への理解を深め、出品者の表現力等の向上を図る。

3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額	1,846	1,953	2,099	2,071	1,937	
(26年度予算額大幅増/減の理由)						
事業費	A	1,719	1,910	1,794	1,753	1,750
人件費	B	9,538	8,804	8,804	9,538	8,804
総コスト(C = A + B)		11,257	10,714	10,598	11,291	10,554
正規職員(1年間の従事人数)		1.30人	1.20人	1.20人	1.30人	1.20人
臨時職員(1年間の従事人数)		0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人
国県支出金	D	0	0	0	0	0
その他特定財源	E	1,468	1,338	1,286	1,216	1,260
市の財政負担(= C - D - E)		9,789	9,376	9,312	10,075	9,294

26年度、27年度の事業費、人件費は見込額  
臨時職員の給与も、人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

評価指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度目標値	将来目標値
成果	出品点数	点	694.0	621.0	635.0	(目標) 630.0 (実績) 601.0	29年度 640.0
	指標の定義・説明	年度ごとの出品作品数の総計					
成果	入場者数	人	4,134.0	4,468.0	4,570.0	(目標) 4,000.0 (実績) 4,471.0	29年度 4,600.0
	指標の定義・説明	年度ごとの会期中の来場者数の総計					
					(目標) (実績)		年度
	指標の定義・説明						
					(目標) (実績)		年度
	指標の定義・説明						

指標に基づく評価  
出品点数は減少傾向にあるが、その要因として、出品者の平均年齢の上昇が考えられる。今後は若い世代の出品を促すことで、出品点数の増加を図りたい。入場者数は増加傾向にあるが、引き続き広報活動を行い、地域住民の芸術鑑賞への関心を高めていきたい。

5. 事業の実施を通じた分析

(1) 現在の課題と状況	効率性に課題
現状では、出品点数の減少と出品者の高齢化が課題として挙げられる。また出品者の半数近くを役員等が占めていることもあり、一般参加者も多くはない。出品点数の減少と出品者の高齢化には相互関連があると考えられるため、学生の出品手数料を引き下げるなど、若年層の出品を促す方策を検討していく必要がある。若年層からの出品の増加の相乗効果として、世代間交流の活発化が期待できる。	
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	
年1回、公募の美術展覧会が開催されている市町村が複数ある(川口市、所沢市など)。全国の中核市においても同様である。	
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	
出品者においては、作品発表の場が減少し、創作意欲の低下が考えられる。また、無料で良質な作品を鑑賞できる機会が喪失し、地域住民の関心が低下し、地域文化の衰退に繋がる恐れがある。	

# 平成26年度事務事業評価 方向性提示シート

所管部署		文化スポーツ部				文化芸術振興課	文化芸術振興担当
事務事業名称		25	25	02	01	川越市美術展覧会	
今後3年間の方向性	26年度	改善(見直し)		若年層の出品点数が非常に少ないため、若年層に対しては出品料金を引き下げるなど、出品点数の増加のための方策を検討・推進していく。			
	27年度	継続					
	28年度	継続					

## 1 川越市美術展覧会出品者状況(過去5年度分)

		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		新規出品者人数 (新規出品割合)		新規出品者人数 (新規出品割合)		新規出品者人数 (新規出品割合)		新規出品者人数 (新規出品割合)		新規出品者人数 (新規出品割合)	
日本画	一般	67		64		45		44		44	
	役員等	27		22	18	28	11	31	14	32	10
	合計	94		86	(20.93%)	73	(15.07%)	75	(18.67%)	76	(13.16%)
洋画 ・ 彫塑	一般	188		221		183		173		170	
	役員等	82		72	80	90	37	93	28	89	30
	合計	270		293	(27.30%)	273	(13.55%)	266	(10.53%)	259	(11.58%)
工芸	一般	60		56		48		60		45	
	役員等	24		23	22	24	19	24	17	24	12
	合計	84		79	(27.85%)	72	(26.39%)	84	(20.24%)	69	(17.39%)
書	一般	51		78		52		53		48	
	役員等	55		46	41	52	5	57	9	54	12
	合計	106		124	(33.06%)	104	(4.81%)	110	(8.18%)	102	(11.76%)
写真	一般	76		91		68		72		65	
	役員等	28		21	27	31	13	28	24	30	14
	合計	104		112	(25.96%)	99	(13.13%)	100	(24.00%)	95	(14.74%)
合計	一般	442		510		397		402		372	
	役員等	216		184	188	224	85	233	92	229	78
	合計	658		694	(27.09%)	621	(13.68%)	635	(14.49%)	601	(12.98%)

新規出品者は平成21年度を基準に抽出。

## 2 出品者平均年齢

	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度
日本画	7 0 . 3 4	7 1 . 2 7
洋画・彫塑	6 7 . 4 5	6 7 . 7 0
工芸	6 7 . 8 6	6 7 . 9 0
書	6 3 . 2 8	6 4 . 4 5
写真	6 9 . 1 8	7 0 . 7 4
全体	6 7 . 3 4	6 8 . 0 8

平成 2 3 年度以前はデータなし

## 3 若い世代の参加へ向けた取組

- ・ 学生を対象に出品料を 1 , 0 0 0 円に値下げ（従来は一律 2 , 0 0 0 円）。
- ・ 学生を対象とした「学生奨励賞」を各部門で創設。
- ・ 市内高校の美術部・書道部・写真部へ向けた広報活動。

## 4 川越美術協会展との比較

	川越市美術展覧会	川越美術協会展
会期	毎年 1 0 月（ 2 期開催）	毎年 4 月開催
会場	川越市立美術館	川越市立美術館
出品対象者	川越市または市周辺に在住、在勤、 在学する 1 5 歳以上の方（中学生 を除く）	川越美術協会会員
出品点数	約 6 3 0 点	約 2 6 0 点（協会員の 6 割程度）

平成26年度 事務事業評価シート

平成25年度に実施した事業を評価しています

事務事業名称	文芸川越編集刊行					継続					
コード	25	-	25	-	02	-	02	予算事業名	地域文化支援		
担当部署	文化スポーツ部	文化芸術振興課			生涯学習推進担当		予算事業コード	会計 10	款 02	項 01	目 16

1. 事業の位置付けと関連計画、関連事業等

第三次川越市総合計画上の位置付け(太枠内)		位置付けなしの場合	法令による実施義務	義務ではない
基本目標(章)	2章	学びと交流を深め、豊かな心と文化をはぐくむまち	実施計画事業名	地域文化支援
方向性(節)	3節	歴史文化の継承と新しい市民文化の創造	個別計画等の名称	川越市文化芸術振興計画
施策	1	芸術文化活動の充実	当事業に関連する事務事業	
細施策	2	芸術文化活動への支援の充実		
事業実施の根拠となる法令・条例等	なし			

2. 事業の目的と概要

事業の目的 (誰・何を対象に、何のために実施するのか)	広く市内の文芸創作活動を促し、その作品を市民に供して豊かな人間性を培うとともに、地域文化の普及向上に資する。
事業の概要 (活動内容、実施手段・方法など)	市民文芸誌「文芸川越」の刊行。4～5月に文芸作品(詩・短歌・俳句・川柳・随筆・小説)を募集し、6～12月に市が委嘱する編集委員が作品を選考、編集。2月刊行。作品の応募者、社会教育施設や関係各機関への無償配布と、販売(1冊1,000円)。年4回の編集委員会議の開催。

3. 実施にかかるコストと実績

(単位:千円)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額	1,599	1,608	1,549	1,472	1,540	
(26年度予算額大幅増/減の理由)						
事業費 A	1,542	1,449	1,565	1,409		
人件費 B	1,467	1,467	2,935	1,467	1,834	0
総コスト(C = A + B)	3,009	2,916	4,500	2,876	1,834	0
正規職員(1年間の従事人数)	0.20人	0.20人	0.40人	0.20人	0.25人	
臨時職員(1年間の従事人数)	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	
国県支出金 D	0	0	0	0	0	0
その他特定財源 E	88	70	48	36		
市の財政負担(= C - D - E)	2,921	2,846	4,452	2,840	1,834	0

26年度、27年度の事業費、人件費は見込額  
臨時職員の給与も、人件費に含みます。

4. 成果指標・活動指標による分析

評価指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度目標値	将来目標値
成果 応募者数	人	389.0	344.0	341.0	(目標) 350.0 (実績) 297.0	350.0	350.0
指標の定義・説明		文芸作品を応募した者の人数					
成果 掲載者数	人	377.0	333.0	336.0	(目標) 350.0 (実績) 290.0	350.0	350.0
指標の定義・説明		文芸川越に掲載した作品の作者の人数					
					(目標)		
					(実績)		
指標の定義・説明							

指標に基づく評価

応募者が固定化しているため高齢化により、応募者数は年々減少している。

5. 事業の実施を通じた分析

(1) 現在の課題と状況	効率性に課題
昭和55年度の創刊以来、毎年度1冊の文芸誌を発行。作品の応募資格は市内在住、在勤・在学の15歳以上。300～350名ほどの応募があるが、年々減少している。投稿者のうち70～80歳代が7割、20～30歳代がほとんどない。若い世代の応募をいかに促していくかが課題。	
(2) 比較参考値(他市での類似事業の例など)	
さいたま市「さいたま市民文芸」 応募者494人 掲載者448人(H25) 所沢市「文芸所沢」 応募者287人 掲載者275人(H25)	
(3) 事業を廃止・縮小したときの影響	
市民の文芸活動の発表の場として35年の伝統をもつ事業。応募者の固定化は否めないが、当市にはほかに同様の事業がないので、廃止した場合、市民の文芸活動の発表の場がなくなり、市民の文芸創作活動が後退する恐れがある。	

# 平成26年度事務事業評価 方向性提示シート

所管部署		文化スポーツ部				文化芸術振興課		生涯学習推進担当	
事務事業名称		25	25	02	02	文芸川越編集刊行			
今後3年間の方向性	26年度	継続		作品募集の周知方法などの検討課題はあるが、市民の文芸活動の発表の場として、事業は継続していきたい。					
	27年度	継続							
	28年度	継続							

## 文芸川越編集刊行事業補足資料

事業開始：昭和55年度  
 （今年度で35年目、2月に第35号を発行する予定）

決算額（26年度は予算額）内訳

（円）

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度 （予算額）
報償費 編集委員報償	877,100	877,100	877,100	877,100	878,000
需要費 印刷製本費等	619,342	553,623	525,564	517,231	627,000
役務費 刊行案内	19,450	17,350	19,580	14,050	20,000
川越文芸賞表彰経費	-	-	141,801	-	15,000
計	1,515,892	1,448,073	1,564,045	1,408,381	1,540,000

平成24年度に、市制施行90周年記念事業として創設。18名の受賞者に賞状・記念楯を授与。受賞者及び応募者等と編集委員との交流会を開催した。26年度の第35号以降5号毎に実施する予定。

応募者数推移（部門別）

（人）

（創刊から3年）

（10年目）

（20年目）

	55年度 （創刊号）	56年度 （第2号）	57年度 （第3号）	元年度 （第10号）	11年度 （第20号）
短歌	180	196	207	289	204
俳句	132	143	157	297	167
川柳	51	38	61	76	80
詩	37	26	21	21	20
随筆	-	15	16	20	26
小説	-	8	4	6	17
計	400	426	466	709	514

（直近5年）

	22年度 （第31号）	23年度 （第32号）	24年度 （第33号）	25年度 （第34号）	26年度 （第35号）
短歌	133	110	104	88	86
俳句	117	103	101	87	88
川柳	60	55	59	55	45
詩	35	37	33	25	21
随筆	27	23	28	22	18
小説	17	16	16	20	21
計	389	344	341	297	279

応募者数推移（年代別）

(人)( 1)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
10歳代	25 6.4%	26 7.6%	20 5.9%	19 6.4%	20 7.2%
20歳代	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	2 0.7%
30歳代	2 0.5%	1 0.3%	3 0.9%	0 0.0%	0 0.0%
40歳代	9 2.3%	9 2.6%	10 2.9%	7 2.4%	8 2.9%
50歳代	12 3.1%	10 2.9%	16 4.7%	7 2.4%	10 3.6%
60歳代	67 17.2%	55 16.0%	60 17.6%	49 16.5%	44 15.8%
70歳代	165 42.4%	143 41.6%	130 38.1%	122 41.1%	107 38.4%
80歳代	92 23.7%	85 24.7%	88 25.8%	80 26.9%	72 25.8%
90歳～	17 4.4%	15 4.4%	13 3.8%	13 4.4%	16 5.7%
計	389 100.0%	344 100.0%	341 100.0%	297 100.0%	279 100.0%

1 各年度の年代別比率

部門別・年代別応募者数（26年度）

(人)( 2)

	短歌	俳句	川柳	詩	随筆	小説
10歳代	0 0.0%	9 10.2%	0 0.0%	6 28.6%	0 0.0%	5 23.8%
20歳代	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	1 4.8%
30歳代	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
40歳代	0 0.0%	2 2.3%	0 0.0%	4 19.0%	0 0.0%	2 9.5%
50歳代	6 7.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	1 5.6%	2 9.5%
60歳代	12 14.0%	15 17.0%	2 4.4%	6 28.6%	5 27.8%	4 19.0%
70歳代	35 40.7%	32 36.4%	22 48.9%	4 19.0%	9 50.0%	5 23.8%
80歳代	27 31.4%	22 25.0%	19 42.2%	0 0.0%	2 11.1%	2 9.5%
90歳～	6 7.0%	8 9.1%	2 4.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計	86 100.0%	88 100.0%	45 100.0%	21 100.0%	18 100.0%	21 100.0%

2 各部門の年代別比率

26年度の応募者のうち連続して応募がある者

(人)( 3)

	26年度応募者数	2年以上	3年以上	4年以上
短歌	86	67 77.9%	58 67.4%	54 62.8%
俳句	88	63 71.6%	55 62.5%	48 54.5%
川柳	45	41 91.1%	37 82.2%	34 75.6%
詩	21	13 61.9%	8 38.1%	5 23.8%
随筆	18	12 66.7%	10 55.6%	9 50.0%
小説	21	11 52.4%	6 28.6%	5 23.8%
計	279	207 74.2%	174 62.4%	155 55.6%

3 応募者数に対する比率



## 文芸川越の頒布先

応募者のほか

市内小・中・高等学校・大学

市内公民館・図書館・文化施設等公共施設

市内金融機関

市内老人福祉施設

県立図書館

近隣市町村・図書館等